

平成8年度

米沢市立上杉博物館年報

Vol. 9

Annual Report

1996

YONEZAWA CITY UESUGI MUSEUM

## 刊行にあたって

平成7年9月から2か年計画で実施しておりました本市所蔵の重要文化財「上杉家文書」の修復事業が平成9年3月に完了いたしました。これは、平成元年に上杉家より寄贈されたもので、旧米沢藩上杉家に伝来した武家文書であり、中世における文書の生きた姿を伝える唯一の文書群として、昭和54年6月に重要文化財に指定されたものです。

修復作業は、個々の文書の状態によって、解装、裏打ち除去、繕（つつく）り、裏打ちなどが施され、旧状のままを基本として仕立てられました。それらを布張りの函に納め、さらに、新調した桐箱に納めるという二重の保存になっております。

博物館では、館の管理運営をお願いしている(財)米沢上杉文化振興財団の御尽力により、3件の特別展を開催いたしました。

春の特別展では、宮廷衣裳展〈日本の伝統美と「こころ」〉と題し、大正天皇即位式にあたり、明治天皇が特別に指示して作ったといわれる梨本宮伊都子妃殿下の礼服や、明治天皇内親王の朝香宮妃着用衣裳など、日本の伝統美の粋を表現した逸品を展示いたしました。夏には、昆虫展〈世界と日本を代表する昆虫〉を開催しました。平成元年に山谷氏から寄贈された昆虫コレクションを基に、昆虫の多様性と郷土の昆虫相の豊かさを表現しました。秋には、26回目を数える、日本刀展〈幕末期の名刀展〉を開催し、江戸時代末期の名刀を鑑賞していただきました。

一方、本市の新しい博物館の建設に向け、建設基本構想を策定するなど、平成13年の開館を目指し、その準備も着々と進めております。

今後とも、なお一層の御指導、御助言を賜りますようお願い申し上げます。

平成10年3月

米沢市教育委員会

教育長 相 田 實

# 目 次

要 録 の 前

○館の概要 .....	1
・目的と沿革	
・施設	
・博物館日誌 .....	2
○平成8年度事業	
1. 展 示	
(1) 宮廷衣裳展 .....	4
(2) 第7回 昆虫展 .....	7
(3) 第26回 日本刀展 .....	9
(4) 館蔵品展 .....	11
2. 資料管理事業	
(1) 上杉家文書資料集作成準備作業 .....	14
(2) 資料台帳整備作業 .....	14
(3) 資料整理保存作業 .....	14
(4) 図書資料分類・整理作業 .....	14
3. 調査研究 米沢藩関係資料基礎調査	
1. 調査および整理の方法 .....	15
2. 米沢藩に係る文化資源の状況 .....	16
4. 収 集	
(1) 平成8年度受入資料 .....	29
(2) 収蔵資料数 .....	30
5. 博物館実習 .....	31
○平成8年度 入館利用状況	
1. 利用状況 .....	32
2. 利用案内 .....	33
○組織・名簿 .....	34
1. 米沢市立上杉博物館協議会委員	
2. 財団法人 米沢上杉文化振興財団	
3. 米沢市立上杉博物館	

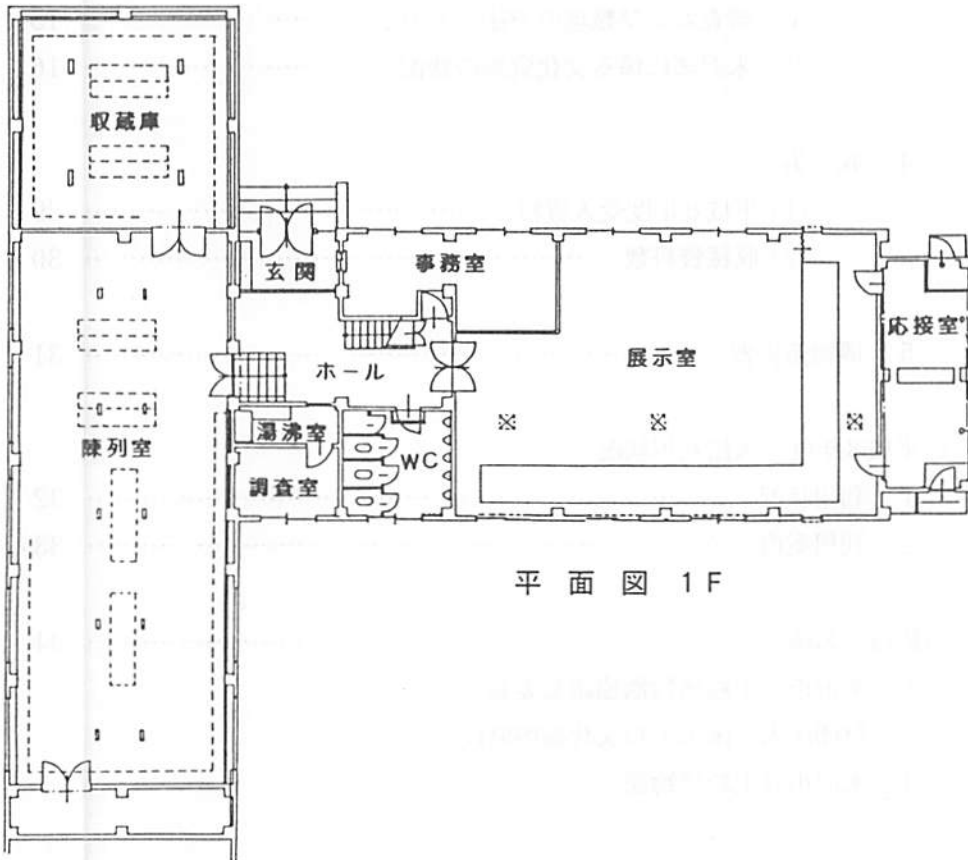
# 館の概要

## 目的と沿革

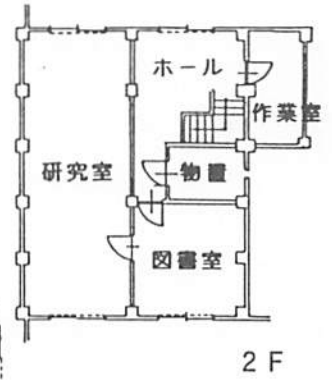
米沢市立上杉博物館は、その前身として米沢郷土館・米沢市立郷土博物館・市立米沢博物館があった。これらは南置賜郡役所や市立図書館に併設されていたが、昭和42年、市民の教養の向上と学芸および文化の発展を図るため、博物館施設として現在の位置に独立した館が建てられ、名称も米沢市立上杉博物館となって、そのあゆみを始めた。

当館では、価値ある資料を収集・保存し調査研究に基づく展示を行い、教育的配慮のもとに一般の利用に供すること、人々の教養・調査研究・レクリエーション等に資するために必要な事業を行うこと、資料に関する調査研究を行うことを目的としている。

- 昭和5年10月 元南置賜郡役所に米沢郷土館設置。
- 昭和13年4月 市政50周年記念として米沢市に移管され、市立図書館に併設。
- 昭和27年9月 博物館相当施設として登録、市立米沢郷土館と称す。
- 昭和30年9月 市立米沢図書館に移転（旧市立米沢図書館）。
- 昭和37年7月 博物館法による設置条例制定、市立米沢博物館と改称。
- 昭和41年11月 丸の内一丁目4番13号に、市立米沢博物館新館完成。
- 昭和42年4月 博物館法による設置条例制定、米沢市立上杉博物館と改称。
- 昭和42年6月 博物館施設として登録。



平面図 1F



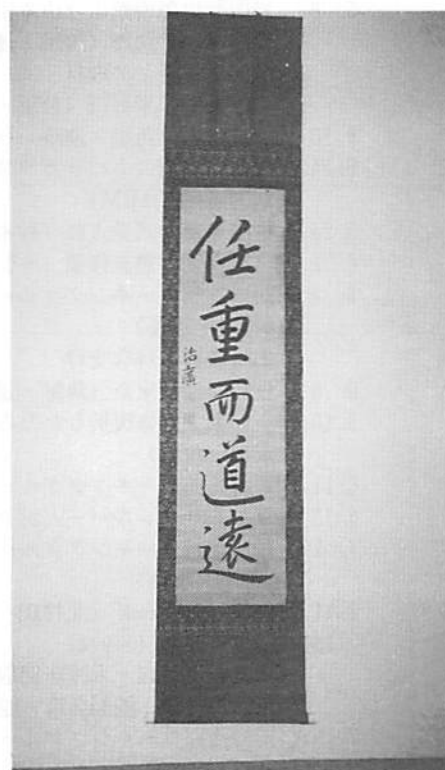
2F

施設	
総面積	473.42㎡
陳列室	129.60㎡
展示室	117.82㎡
収蔵庫	62.64㎡
研究室	32.40㎡
事務室	65.20㎡
その他	65.76㎡

## 平成8年度 博物館日誌

- H8. 4. 2 舟山文化課長、小林課長補佐、山本係長、  
来館  
資料調査 米沢市(角屋)
4. 3 委託契約(小林補佐・山本係長・平間)
4. 8 佐藤防災定期点検
4. 9 洛中洛外図 稽照殿での展示についての  
打ち合わせ(舟山課長・青木理事長・沖田  
局長)  
館内清掃(ABM)
- 4.11 山形県立博物館より2名来館
- 4.15 資料調査 川西町(遠藤・生熊)
- 4.16 資料調査 米沢市(角屋)
- 4.18 館外清掃(シルバー人材センター)
- 4.19 館外清掃(シルバー人材センター)
- 4.22 山形新聞鈴木記者来館
- 4.23 館内ワックスかけ(ABM)
- 4.24 資料搬入(ジャパン通信社2名・駒込和装  
学院2名・ヤマト運輸2名)
- 4.25 展示準備(～4/26)(ジャパン通信社2名・  
駒込和装学院2名)  
外壁看板修理作業(小泉創芸)
- 4.26 宮廷衣裳展開催(～6/2)  
資料搬入(ジャパン通信社2名・駒込和装  
学院1名)  
米澤新聞鈴木記者取材
- 4.27 展示準備(駒込和装学院1名)
- 4.30 湿度計記録紙交換(稽照殿)
5. 1 埼玉県立博物館視察(沖田局長)
5. 6 トイレ入口ガラス破損
5. 8 岩国歴史美術館より山本明氏来館  
寺院まわり調査(角屋・遠藤)  
ニューメディア取材  
資料調査 米沢市(角屋・遠藤)
- 5.10 調査依頼(角屋・遠藤)(～5/11)
- 5.14 ガラス修理(コバリガラス)  
館内清掃(ABM)
- 5.24 桶屋道具一式受入れ(鈴木氏より寄贈)
6. 2 宮廷衣裳展撤去作業(～6/3)
6. 4 新博物館ワーキンググループ会議  
(角屋・遠藤)  
臨時職員の辞令交付
6. 6 資料調査 東京(角屋・遠藤)(～6/7)
- 6.10 上杉家文書修復折りたたみ立ち合い  
京都(角屋)
- 6.11 新博物館ワーキンググループ会議(遠藤)
- 6.13 草むしり(シルバー人材センター)
7. 1 新博物館ワーキンググループ会議  
(角屋・遠藤)
- 7.11 燻蒸打ち合わせ(北村氏・梶原氏)
- 7.13 昆虫展開催(～9/4)  
米沢市広報課・米澤新聞取材  
井形氏来館 能面2箱・能衣裳4点返却
- 7.15 新博物館ワーキンググループ会議  
(角屋・遠藤)
- 7.17 上越市総合博物館に貸し出す資料の写真  
撮影(メモリー舎 松本)
- 7.18 山形美術館 椿貞雄展「太平洋流図」貸し  
出しのため日通美専車によって搬出  
(加藤千明氏)  
企画課町田課長来館
- 7.20 燻蒸用測定路着け
- 7.22 収蔵庫・蔵燻蒸作業(～7/25)  
(財)文化財虫害研究所山野勝次先生来館
- 7.24 刀撮影(松本氏)(～7/25)
- 7.26 新博物館ワーキンググループ会議  
(角屋・遠藤)  
群馬県小幡氏(他3名)来館
- 7.28 うきたむ風土記の丘考古資料館 川崎氏  
来館
- 7.30 洛中洛外図(写真版)第一ホテルへ持ち  
出し
8. 1 雲井龍雄関係写真(肖像画・生家跡地)  
小貫幸太郎氏へ貸し出し
8. 2 東屋敷発掘現場写真撮影(沖田局長)
8. 6 刀剣博物館において刀剣展打ち合わせ  
(沖田局長・角屋・石塚氏)  
上越市総合博物館へ資料搬出
8. 7 上越市立総合博物館資料展示指導  
(沖田局長)(～8/9)
- 8.10 館外清掃(シルバー人材センター)
- 8.17 井形氏、金剛会寄託品の「杵かせわ」  
1基川西町薪能へ持ち出し
- 8.21 新博物館ワーキンググループ会議  
(角屋・遠藤)
- 8.22 米沢女子短期大学実習生打ち合わせ
- 8.24 桐生氏、昆虫撮影のため来館したが、撮影  
しない
- 8.25 金剛会寄託品の太刀2口、川西町薪能のた  
め持ち出し  
長野県の杉橋紘一氏他6名来館
- 8.27 沖田氏、資料撤去のため上越市総合博物  
館へ
- 8.28 新博物館建設基本構想策定委員会  
(沖田局長・角屋・遠藤)  
上越市総合博物館資料返却。
- 8.31 博物館実習開始(～9/6)  
井形氏、杵かせわ1基、太刀2振り返却
9. 5 会津若松市教育委員会 柏原氏、小林氏  
来館  
上越教育大学助教授 川村氏来館  
アルバイト打ち合わせ
- 9.11 標本搬出、刀台搬入(文化課より山本係  
長、遠藤氏)
- 9.12 新博物館ワーキンググループ会議  
(角屋・遠藤)
- 9.13 博物館外観撮影(㈱ベック)
- 9.17 博物館実習1名(～9/23)  
上杉茂憲夫人所用マント・ド・クール搬入
- 9.19 刀搬入
- 9.20 刀展示(檜山氏、刀剣米沢支部)
- 9.21 第26回 日本刀展開催(～11/7)
- 9.25 上杉家文書修復折りたたみ立ち合い京都  
(角屋)

- |          |  |       |  |
|----------|--|-------|--|
| 10. 1    | 新博物館建設基本構想策定委員会<br>(沖田局長・角屋・遠藤)  | 1. 14 | 機械警備点検・館内清掃 (ABM)                                  |
| 10. 2    | 佐藤防災点検<br>岩国歴史美術館へ資料搬出   | 1. 23 | 局長室 エアコン修理 (日立)                                    |
| 10. 3    | 蔵掃除 (遠藤)<br>三友堂病院院長他来館   | 2. 4  | 教育長・文化課長来館   |
| 10. 8    | 館内清掃 (ABM)   | 2. 6  | 洛中洛外図屏風見学のため県会議員・事務局 15名来館                         |
| 10. 13   | 山形県立博物館等職員研修会 長井市<br>(角屋)  | 2. 13 | 展示撤去作業<br>文化課長・補佐来館                                |
| 10. 15   | 上杉孝久氏来館<br>テレビ朝日「日本の旧家」取材 (～10/16)<br>大名道具収蔵館集會 致道博物館 (角屋)<br>(～10/16) | 3. 3  | 展覧会ポスター打ち合わせ                                       |
| 10. 16   | (財)岩国歴史美術館特別展視察 (沖田局長)<br>(～10/18)                                     | 3. 5  | 大名行列図修理持ち出し (沖田表具店)                                |
| 10. 17   | 新博物館ワーキンググループ会議<br>(角屋・遠藤)   | 3. 11 | 雨田家より預かり陣かさ返却<br>教育長、教育次長来館<br>石塚副理事長来館<br>理事長岡氏来館 |
| 10. 19   | 平洲サミット史跡案内 (角屋)  | 3. 17 | 出版物打ち合わせ (デザイン原)                                   |
| 10. 22   | 小田原市資料館へ文書貸し出し<br>YBC取材  | 3. 18 | グランド北陽 小山氏来館<br>TUUY山形 飯岳氏取材のため来館                  |
| 10. 25   | 上杉紀美子 (邦憲夫人) 氏来館   | 3. 21 | 桶道具調査 (埋蔵文化財資料室にて)<br>(沖田局長・遠藤・佐藤)                 |
| 10. 29   | 予算打ち合わせ 文化課 (舟山課長・小林補佐・山本係長・平間) 来館                                     | 3. 25 | 購入資料審査会 (沖田局長)                                     |
| 11. 1    | 新博物館ワーキンググループ会議<br>(角屋・遠藤)   | 3. 26 | 教育長・舟山課長・嶋貫雄次氏来館                                   |
| 11. 8    | 刀剣撤去<br>新博物館建設基本構想策定委員会 (遠藤)<br>刀剣博物館檜山正則氏来館<br>国立歴史民俗博物館湯浅隆氏来館        | 3. 27 | かてもの版木撮影 (ハイテック プラニングセンター)                         |
| 11. 14   | 角屋、遠藤、山形美術館へ   | 3. 28 | 臨時職員面接   |
| 11. 18   | 井形氏、能面2、衣裳4持ち出し  | 3. 31 | 目録打ち合わせのためデザイン原<br>来館                              |
| 11. 19   | 小田原市資料館より文書返却  |       |  |
| 11. 21   | 新博物館ワーキンググループ会議<br>(角屋・遠藤)   |       |  |
| 11. 22   | 岩国歴史美術館資料返却  |       |  |
| 11. 25   | 館内清掃<br>文化課より山本係長、遠藤氏来館  |       |  |
| 11. 26   | 館内廃棄処理 (渡辺商店)<br>館内ワックスかけ  |       |  |
| 11. 29   | 椿貞雄絵画搬入  |       |  |
| 12. 3    | 刀台搬出 文化課より山本係長、月山氏、<br>遠藤氏来館   |       |  |
| 12. 7    | 館藏品展・椿貞雄絵画展開催 (～2/9)   |       |  |
| 12. 10   | 館内清掃 (ABM)   |       |  |
| 12. 13   | 漏電検査<br>秋田県立図書館4名視察のため来館   |       |  |
| 12. 17   | エアコン清掃、点検  |       |  |
| 12. 20   | 資料調査 高島町 (角屋・沖田局長)   |       |  |
| 12. 26   | 沖縄県高網市教育長来館<br>いわき明星大学2名博物館見学レポート作<br>成のため来館<br>会津若松市企画課長高橋氏来館         |       |  |
| H9. 1. 4 | 山形放送取材   |       |  |
| 1. 10    | 文化課打ち合わせ (舟山課長・小林補佐・<br>平間)  |       |  |
| 1. 12    | 新博物館市民フォーラム (角屋・遠藤・生<br>熊)   |       |  |



新収蔵品上杉治廣書

# 平成8年度事業

## 1. 展 示

### (1) 宮廷衣裳展

－日本の伝統美と「こころ」－

従来春の特別展は重要文化財上杉家文書をテーマ別に選定し、上杉本洛中洛外図とともに展覧してきたが、上杉家文書は修理のためすべて京都国立博物館内文化財保存修理所において展示することができなかった。また、博物館の管理運営を行っている財団法人米沢上杉文化振興財団が置賜広域行政事務組合から受託した業務「米沢藩関係資料基礎調査」の調査・整理、及び「歴史文化施設整備への提言」を作成していたため、展示を本館独自で企画、準備することが不可能であった。そのため株式会社ジャパン通信社の企画協力により、駒込和装学院・青梅きもの博物館より資料を借用し本展覧会となった。

大正天皇即位式にあたり明治天皇が特別に指示して作ったと言われる、梨本宮守正王、伊都子妃の礼服、明治天皇内親王である朝香宮妃着用衣裳など、日本の伝統美を表現した逸品を見学できる機会となった。

伊都子妃の生家は鍋島候爵家であるが、その先祖たる佐賀藩鍋島家と米沢藩上杉家は姻戚関係にあった。米沢藩二代藩主上杉定勝の夫人は鍋島勝茂の娘であり、佐賀藩二代藩主鍋島光茂の夫人は上杉定勝の娘である。また、江戸時代米沢藩においては、上杉鷹山が絹織物

の生産に取り組んだが、それは後の時代に大きな実を結び「米沢織」として全国に名を馳せるに至った。昭和34年には皇太子（現天皇）との成婚の儀に着用する正田美智子さん（現皇后）の礼服として米沢織物が納められている。

衣裳を身につけた人々に思いをいたすこと、衣裳の製作技術（織・染・形態等）に感嘆すること、学ぶこと、そこから考える日本の伝統文化等、来館者の見方、感じ方は様々であったようである。来館者の多くが観光客である本館では、米沢藩及び上杉家関係の資料がないことに不満の声もあったが、地元の人々が比較的足を運んでくれた展覧会であった。

なお、展示スペースと企画の関係から本館で展示できなくなった国宝上杉本洛中洛外図は、複製が隣接する上杉神社の宝物館「稽照殿」で公開された。（4月22日～5月30日）

会 期：平成8年4月26日（金）  
～6月2日（日）

主 催：米沢市立上杉博物館

主 管：財団法人 米沢上杉文化振興財団

入 館 料：一 般 600円（480円）  
学 生 400円（320円）  
小中生 200円（160円）

※（ ）内は20名以上の団体割引料金

関連印刷物

ポスター（B2判）	500枚
目録（A3判 2つ折）	8,000枚
チケット	8,000枚



ポスター

展示資料目録

〔1〕復元・現皇太子御夫妻衣裳

- 1 復元・現皇太子殿下束帯衣裳
- 2 復元・雅子妃殿下十二単衣裳

〔2〕梨本宮御夫妻衣裳

梨本宮守正殿下着用衣冠

- 3 袍（ほう）
- 4 単（ひとえ）
- 5 下襲・別裾（したかさね・べっきょ）
- 6 奴袴（ぬばかま）
- 7 垂櫻の冠（すいえいのかんむり）

衣裳付属小物

- 8 烏皮福覆（うひり）
- 9 石帯（せきたい）
- 10 笏（しゃく）
- 11 帖紙（たとう）
- 12 桧扇（ひおうぎ）

梨本宮伊都子妃殿下着用五衣小袷

- 13 白小袖（しろこそで）
- 14 緋袴（ひばかま）
- 15 帯
- 16 紅固地綾幸菱文様単（ひとえ）
- 17 紫菊立涌文綾五衣（いつつきぬ）
- 18 萌黄固織綾桐唐草地紋打衣（うちぎぬ）
- 19 小袷（こうちぎ）

衣裳付属小物

- 20 桧扇（ひおうぎ）
- 21 帖紙（たとう）
- 22 日陰糸・お心葉・釵子（さいし）・元結・簪
- 23 丸髷（はるかもし）
- 24 沓（くつ）
- 25 襪（しとうず 靴下）
- 26 小忌衣（おみごろも）

〔3〕梨本宮伊都子妃殿下着用衣裳及び皇族妃着用衣裳  
（梨本宮伊都子妃殿下着用衣裳）

- 27 薄茶亀甲地鳳凰丸雲花菱文生二重織袷  
（皇族妃着用衣裳）
- 28 葡萄地小葵菱地尾長鳥花丸文縫取二重織小袷  
（桂宮淑子内親王着用）
- 29 紅縮緬地枝木文桜藤紅葉折枝紋様小袷



- 3 0 萌黄地花文様紹小袿
- 3 1 鳳凰花折枝文様刺繍帷子

(明治天皇内親王着用)

- 3 2 紅縮緬地菊藤尾長鳥の丸文様刺繍小袖
- 3 3 紅縮緬地八ツ藤菱菊桜折枝文様刺繍祝着

(女官着用衣裳)

- 3 4 萌黄雲立涌尾長鳥文様小袿
- 3 5 深紫地向鸚鵡鳥丸藤菱文様小袿

(典儀官着用衣裳)

- 3 6 大沢典儀官着用束帯

卓 被 (テーブルクロス)

(宮家所用)

- 3 7 龍鳳凰花七宝文様綿卓被
- 3 8 龍鳳凰花丸宝尽し文様綿卓被

[4] 天皇宸翰

- 3 9 後光厳天皇宸翰
- 4 0 後小松天皇宸翰
- 4 1 後花園天皇宸翰
- 4 2 後柏原天皇宸翰
- 4 3 後奈良天皇宸翰

[5] 御祝い引き出物・日用ご使用小物

- 4 4 お引き出物「ボンボニエール (お菓子小箱)」  
今上天皇と美智子妃殿下のご婚礼の際の引き  
出物
- 4 5 お引き出物
- 4 6 お引き出物
- 4 7 お引き出物
- 4 8 お引き出物
- 4 9 梨本宮伊都子妃殿下ご使用・鍋島家家紋抱き  
杏葉付文箱
- 5 0 同妃殿下ご使用・鍋島家家紋抱き杏葉付机
- 5 1 宮家ご使用・左義長羽子板

掛 袱 紗

- 5 2 昭憲皇太后様御手飼の糸にて作られた御袱紗
- 5 3 桐鳳凰文様刺繍袱紗 (梨本宮家使用)
- 5 4 三ツ横見菊文様刺繍袱紗 (宮家使用)

[6] 梨本宮伊都子妃殿下・思い出アルバム・書状

- 5 5 梨本宮伊都子妃殿下アルバム・書状



玄関前看板



撤去作業

## (2) 第7回 昆虫展

本館には日本産の蝶234種の全種8,313頭が所蔵されており、現在仮目録の作成を行っている。そのうち整理の済んだ2つの科(セセリチョウ科・ジャノメチョウ科)について置賜産を抜粋しての標本展示が中心となった。そのほか世界と日本を代表する昆虫として厳選した20箱、平成7年度までに分類・整理が完了した山谷コレクションを公開した。

また、小テーマとして「鳴く虫」の仲間を紹介した。山谷コレクションの約4分の1にあたる昆虫の公開により昆虫の多様性を、また山形県産、置賜地方産などの紹介により、郷土の昆虫相の豊かさを示した展覧会であった。

会 期：平成8年7月13日(土)  
～9月4日(水)

主 催：米沢市立上杉博物館

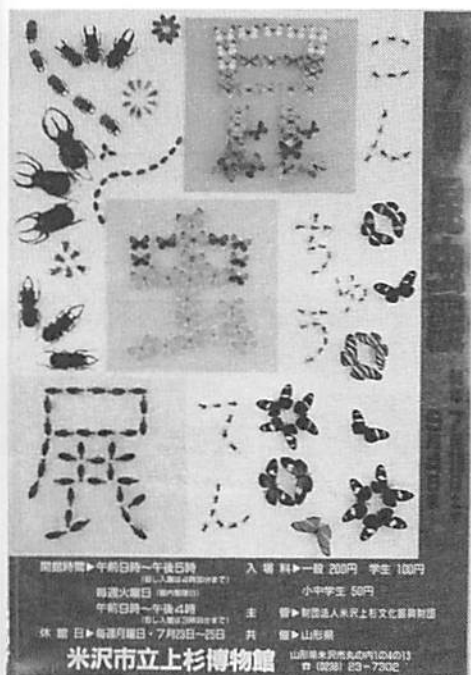
主 管：財団法人 米沢上杉文化振興財団

共 催：山形県

入 館 料：一 般 200円(160円)  
学 生 100円(80円)  
小中生 50円(40円)  
※( )内は20名以上の団体割引料金

### 関連印刷物

ポスター(B2判) 400枚  
リーフレット(A3判2つ折) 7,000枚



ポスター

置賜産蝶類

(解説はリーフレットに掲載)

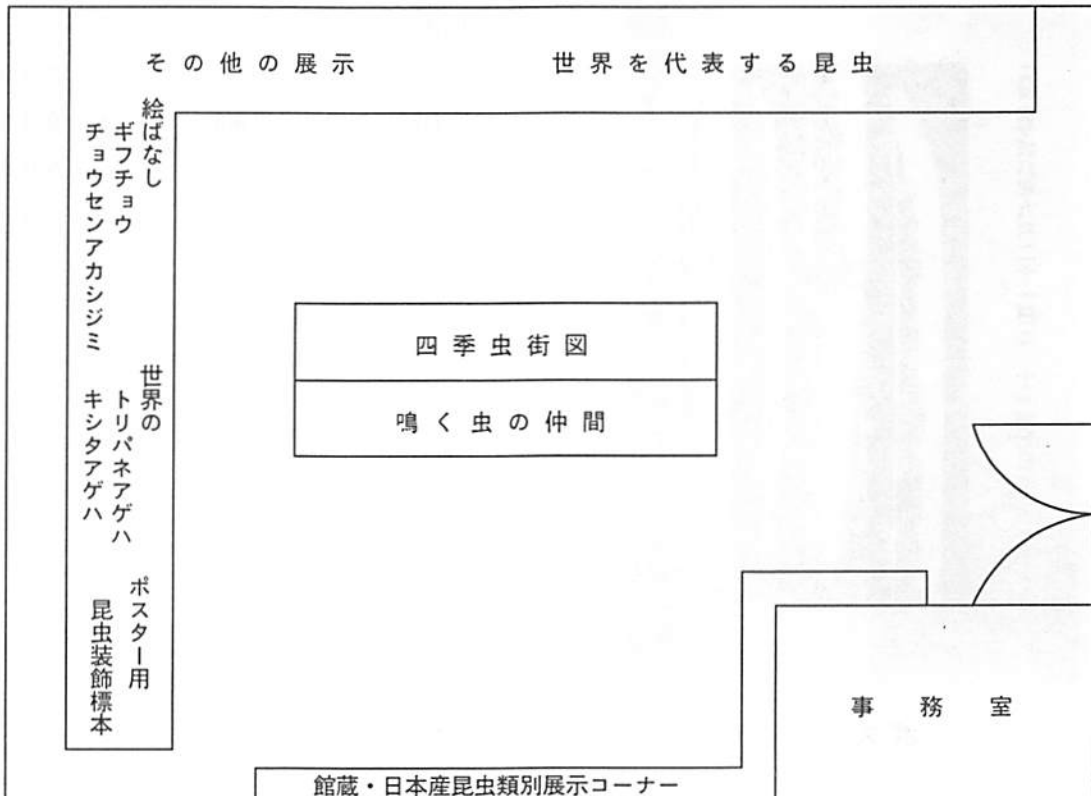
セセリチョウ科

- ミヤマセセリ
- ダイミョウセセリ
- アオバセセリ
- キバネセセリ
- イチモンジセセリ
- ギンイチモンジセセリ
- ホシチャバネセセリ
- コチャバネセセリ
- オオチャバネセセリ
- スジグロチャバネセセリ
- ヘリグロチャバネセセリ
- ミヤマチャバネセセリ

ジャノメチョウ科

- ヒメジャノメ
- コジャノメ
- ヒメウラジャノメ
- ツマジロウラジャノメ
- ジャノメチョウ
- オオヒカゲ
- クロヒカゲ
- ベニヒカゲ
- ヤマキマダラヒカゲ
- サトキマダラヒカゲ
- ヒメキマダラヒカゲ
- ヒカゲチョウ

展示室 展示配置



### (3) 第26回 日本刀展

#### －幕末の名刀展－

平成7年度は本館が「日本刀展」を開催して以来25回目の節目の年であったため、展覧会も「日本刀の移りかわり－平安後期から江戸幕末まで－」と日本刀の歴史を概観する記念展であった。

平成8年度、第26回の展覧会では、時代別テーマに戻り江戸末期の名刀を展示した。江戸時代後期の復古思想を反映し、その中心的存在となった郷土の刀工水心子正秀の作品をはじめ、米沢藩上杉家の藩工加藤国秀・綱俊や各地の名工の作品18口で構成した。

国宝上杉本洛中洛外図は下記の日程で展示した。

原本 9月21日(土)～10月6日(日)

複製 10月8日(火)～11月7日(木)

会 期：平成8年9月21日(土)  
～11月7日(水)

主 催：米沢市立上杉博物館

主 管：財団法人 米沢上杉文化振興財団

共 催：山形県  
財団法人 日本美術刀剣保存協会米沢支部

後 援：財団法人 日本美術刀剣保存協会

入 館 料：一 般 500円(400円)

学 生 300円(240円)

小中生 100円(80円)

※( )内は20名以上の団体割引料金



ポスター

#### 関連印刷物

ポスター (B2判)	350枚
目録 (B5判 2つ折)	5,000枚
図録 (B5判)	500部
チケット	5,000枚

## 展示資料目録

一		刀	銘	渡焼刃水心子正秀（花押）（刻印） 文化十五年二月日 水寒子貞秀鍛之	長さ	二尺三寸・反り六分
二		脇指	銘	正秀（花押） 寛政四年八月日 大樹劔工源綱広	長さ	一尺五寸一分・反り三分
三	重要刀剣	刀	銘	大慶直胤（花押） 天保五年仲春	長さ	二尺四寸八分・反り七分
四	重要刀剣	刀	銘	藤原正次（花押） 天保八丁酉年秋 為昌邦作之	長さ	二尺三寸八分・反り七分
五		刀	銘	作陽士細川正義於東都湯嶋社辺造（刻印） 天保十一庚子年孟夏	長さ	二尺七寸・反り八分
六	重要刀剣	短刀	銘	源秀寿 天保五年仲冬 為濤齊主人作之	長さ	七寸六分弱・僅かに内反り
七	重要刀剣	刀	銘	源清磨	長さ	二尺〇一分・反り四分半
八		脇指	銘	清人作人 元治元年八月吉日	長さ	一尺〇八分・反り極く僅か
九		刀	銘	栗原謙司信秀 安政二年八月日	長さ	二尺三寸三分・反り六分強
十		脇指	銘	源正雄 安政六年二月日 以知岸内砂鉄造	長さ	一尺三寸・反り二分
十一		刀	銘	藤原国秀 嫡子国綱	長さ	二尺二寸四分・反り六分
十二		刀	銘	於江府長運斎綱俊作之 嘉永元年十月吉日 同年廿三日太々土壇拂	長さ	二尺三寸七分半・反り八分七厘
十三		脇指	銘	於江府長運斎綱俊 嘉永元年十月日	長さ	一尺六寸六分・反り四分半
十四		刀	銘	羽州米沢住石黒綱倫 嘉永七年四月吉日	長さ	二尺二寸九分半・反り七分半
十五		刀	銘	於東都近藤景保依好 尾陽住固山宗次作之 天保六未八月於千住 二ツ洞 断伊賀乗重	長さ	二尺二寸八分・反り六分
十六		槍	銘	応馬場義泰需固山備前介宗次作之 干時安政二乙卯年八月吉日	長さ	九寸九分
十七	重要刀剣	刀	銘	御勝山麓住藤原永貞 応西堀光徳君需 慶応元年五月於江府精鍛	長さ	二尺三寸三分・反り五分
十八		刀	銘	横山加賀介藤原祐永 天保十年二月日 （菊紋）一備州長船住	長さ	二尺三寸五分・反り八分

#### (4) 館蔵品展

椿貞雄の生誕100年を記念した特別展は、そのゆかりの地で開催されたが、米沢では行われなかったため、展示室は一館蔵品による椿貞雄展とした。作品を製作年代で分類し、「このころの椿」と題して画業の変遷を辿った。また、椿の著書より被写体への想いや作品に対する取り組みなど、製作の背景となる事象や心情の部分を紹介した。

陳列室は米沢の歴史を概括的に理解できるように配慮したが、特に「上杉謙信」「上杉鷹山」「明治維新时期」「書の世界」で構成した。



#### 展示風景

会 期：平成8年12月7日（土）～

平成9年2月9日（日）

主 催：米沢市立上杉博物館

主 管：財団法人 米沢上杉文化振興財団

入館料：一 般 100円（ 80円）

学 生 60円（ 45円）

小中生 40円（ 30円）

※（ ）内は20名以上の団体割引料金



#### 関連印刷物

ポスター・チケット・目録等の外注はなし

出展目録をワープロコピーにて対応

## 出展目録

### 【展示室】 一館蔵品による椿貞雄展一

No.	作品名	制作年	材質(技法・支持体)	サイズ(縦×横)
1	果物	大正13年	油彩・板	24.2×33.0cm
2	アンドレ(黄服)	昭和7年	油彩・紙	53.0×39.4cm
3	猫の図	昭和8年	鉛筆・紙	37.8×57.8cm
4	夏子像	昭和8年	水彩・紙	40.8×28.6cm
5	牡丹図	昭和10年頃	油彩・画布	72.8×91.0cm
6	溪流(太平風景)	昭和15年	油彩・画布	91.0×116.7cm
7	晴子像	昭和18年	油彩・画布	33.0×23.8cm
8	睡蓮図	昭和19~20年	油彩・画布	60.5×80.0cm
9	妙義山	昭和20年	油彩・画布	60.6×90.9cm
10	夜の自画像	昭和24年頃	油彩・板	53.0×45.3cm
11	彩子(びりけんはげ)	昭和27年	油彩・画布	45.5×37.9cm
12	静物	昭和27年	油彩・板	45.5×53.0cm
13	戸川風景	昭和29~30年	油彩・板	72.2×49.5cm
14	長崎港夕日	昭和31年	油彩・画布	90.9×60.6cm
15	大浦天主堂	昭和32年	油彩・画布	90.9×60.6cm
16	大浦天主堂裏風景	昭和32年	油彩・板	72.5×60.3cm
17	パイナップルと柚子	昭和期	墨彩・紙	47.5×60.6cm
18	釣りをする風景	年代不詳	墨彩・紙	48.7×70.7cm
19	冬瓜図	年代不詳	水彩・紙	46.0×60.6cm
20	隆子像	昭和期	鉛筆・水彩・紙	38.2×25.5cm
21	椿貞雄自刻像	大正7年頃	ブロンズ	
22	自筆表札			
23	「或家の出来事」(複写)			
	『白樺』大正8年10月号、11・12月合併号、大正9年1月号掲載(協力;財団法人日本近代文学館)			
24	自刻版木(子女遊楽図)			
25	三味線箱絵(四面)			
26	画道精神 椿貞雄著	昭和44年発行	(株)光風社書店	

### 【陳列室】 一米沢の歴史~江戸から明治時代~

上杉齊憲書	細井平洲書「温良恭儉書」
上杉齊憲肖像(写真)	細井平洲像
上杉齊憲書(短冊)	上杉鷹山肖像
山内豊熙書(短冊)	上杉鷹山書状
上杉茂憲肖像(写真)	伝国の辞(複製)
上杉茂憲書	九月十三日夜陣中図 狩野文信筆
斎藤篤信書	上杉謙信像
雲井龍雄書	川中島合戦之図 狩野文信筆
三島通庸書	芋川家伝来 鉄錆色塗腰紺色絨二枚胴具足
栗子隧道開通記念盃	鉄溜塗紺糸絨二枚胴具足 付鉄錆地間筋兜外
宮島詠士書「九城宮醴泉銘」	甲種特別貴重刀剣 刀 無銘 伝村正
宮島詠士書「日新其徳」	米沢藩火縄筒 10匁
張廉卿書	成島焼
浅間桂陵書「掬水月在手弄華香滿老」	相良人形

椿 貞雄 明治29～昭和32 (1896～1957)

米沢市上花沢仲町(現米沢市東3丁目)に、土木業椿英夫の三男として誕生。

大正3年、米沢中学校(現米沢興譲館高校)3年の時上京。

椿の墓は長崎産の自然石に、友人武者小路実篤が揮毫したものを深彫りにして、千葉県船橋市に建ててある。

### 大正3～15年 (1914～26) 18～30歳

大正3年上京、偶然岸田劉生の個人展覧会を観て非常に感動し、直ちに劉生への入門を決意、翌年『自画像』、『風景』を持って劉生宅を訪れる。『自画像』は劉生に褒められ椿は大いに感激する。椿は劉生と出会ったことにより木村莊八、武者小路実篤、長与善郎とも親しくなることになる。彼らの思想、芸術感は終生椿に大きな影響を与えることになる。

大正4年草土社(岸田劉生、木村莊八、椿貞雄、中川一政、横堀角二郎)が設立され、椿は劉生宅に頻りに出入りするようになる。劉生が遺した日記(大正9～14年)中522日分に椿が登場していることからその交流の深さがうかがわれよう。

また椿は、高須光治、加藤久とともに叔母の持ち家の一軒で共同生活をしながら制作に没頭した。

大正5年、東京都主催絵画展に出品した椿の作品が銀賞を受ける。

大正6年、長与善郎婦人茂子の妹市川隆子(当時16歳)と出会い、大正10年、岸田劉生夫妻の媒酌で結婚。後に一男三女をもうけている。この頃はすでに個人展も各地で開催しており、大正12年10月には米沢においても開催している。

大正13年、岸田劉生、木村莊八、中川一政等と春陽会(大正11年設立)の会員となる。6月25日長女朝子米沢にて誕生。

山形、米沢にて個展開催。

秋、一家米沢を引き上げて上京し、東京府下落合中井2118に住む。この頃、米沢出身の木村東介の斡旋により、椿を中心にした郷土の青年画家集団(後の七沙会)の構想が固まった。

大正14年、下落合の家をひきあげ、鎌倉扇ヶ谷192に移転。住いを「遅々庵」とよぶ。大正15年4月千葉県船橋町立小学校の図画教員(月給60円代用教員の辞令)となる。

同年12月椿を中心に郷里の若い画家土田文雄、高瀬捷三、上杉勝輝、村山秀雄、志賀三郎、佐藤豊吾の同人7人で七沙会を結成(会名は米沢近郷の寄勝関根のナワタリに因む)。顧問に岸田劉生を迎える。

### 昭和4～15年 (1929～40) 33～44歳

岸田劉生の死(昭和4年12月)から虚脱状態になっていた椿はそこから立ち直るためにヨーロッパ遊学を思い立ち、昭和7年4月4日横浜港を出帆。

パリ、オランダ、スペイン、イタリアを巡り、レンブラント、グレコ、ヴェラスケスなどを観る。特にルーブル美術館においては、ドラクロワ、ルーベンス、ゴッダなどに感動し、あらためて自分の制作態度の誤っていなかったことを確認する。

昭和13年父英夫が亡くなり、米沢の実家を整理、母だけを船橋の新居(船橋市本町3丁目1337-1)に迎える。

昭和15年5月、朝鮮、満州旅行に出発し、京城・三越にて個人展覧会を開催。10月紀元2,600年奉祝美術展覧会(東京府美術館)に「溪流(太平風景)」を出品。

### 昭和20～25年 (1945～50) 49～54歳

昭和20年3月より群馬県碓氷郡西横野村(現在の松井田村)二軒在家慈雲寺の庫裡に疎開。目の前には妙義山の奇峰が連なり、遠く浅間山を望むことが出来る風光絶景の地であった。

8月終戦をむかえるが、妙義山に魅せられた椿は妻と群馬に残り、妙義山、浅間山などの多くの風景画を描いた。椿が船橋の自宅に帰ったのは昭和21年の3月であった。

昭和24年、長女朝子東珠樹氏と結婚、初孫東彩子誕生。孫彩子を描くようになって色彩が明るくなったといわれる。

昭和25年、国画会第24回展(東京都美術館)に出品。「やっと劉生を意識することなく自由に絵が描けるようになった」と語っている。岸田劉生の門をたたいてから35年目のことである。

### 昭和29～32年 (1954～57) 58～61歳

昭和29年、長崎在住の医師で画家でもあった小林敏夫氏(国画会会員)から長崎での国画会展覧会開催の要請があり、下見のため長崎を初めて訪れる。椿は長崎が気に入り、以後歿年まで4年間に5回訪れた。特に大浦天主堂は晩年の椿が最も情熱的に取り組んだモチーフである。

昭和32年、長崎旅行から帰宅後10月発病(ホドキン氏病ーリンパ肉芽種一)、12月29日午後1時30分亡くなる。



## 2. 資料管理事業

### (1) 上杉家文書資料集作成準備作業

重要文化財上杉家文書について、展示・管理に供する整備を行うため未解読部分の解読を平成7年度より行っているが、平成8年度は赤筆筒（坤）に収蔵されている近世文書522通のうち39通を米沢古文書研究会（会長上杉虎雄氏）に委託し解読した。（第一抽斗完了）平成7年度の解読された上杉家文書をワープロ化し、整理を行った。

本作業の最終的目標は資料集の作成にあるが、そのことを含む上杉家文書全体の整備計画については今後の課題となる。

### (2) 資料台帳整備作業

昨年度より継続している本作業は、収蔵庫内のすべての資料について仮台帳との照合が完了した。収蔵品の全貌がおおよそ明らかになったが、受け入れた時点の記録が全くない資料が存在することも判明した。それらについては、未整理資料として現時点からの資料記録カードを作成し、他の館蔵資料と同様保管していくこととする。

### (3) 資料整理保存作業

収蔵庫の清掃、資料の包み直し、防虫剤の交換等の例年の作業に加えて、平成8年7月22日から25日まで収蔵庫、蔵A・B棟の燻蒸作業を行った。処理後の効果判定では、燻蒸処理後の殺虫剤卵用テストサンプルを、温度27℃、湿度70～100%RHの環境条件で14日間保持したが、成虫、蛹、幼虫の生存はなく、虫卵の孵化も認められなかった。

燻蒸内容は下記のとおりである。

施工業者：関東港業株式会社 文化財保存対策事業部

指 導：財団法人 文化財虫害研究所

燻蒸方法：エキボンによる24時間密閉燻蒸

### (4) 図書資料分類・整理作業

平成7年度に策定された「図書資料収集基本方針」、「米沢市立上杉博物館ミュージアムライブラリー図書資料整理マニュアル1995」に基づき、平成5年度以前に受け入れた図書資料247冊の分類作業が完了。平成5年度から平成8年度までに受け入れた図書資料3,000冊の原簿記入、登録番号付与が完了した。

### 3. 調査研究

#### 米沢藩関係資料基礎調査

上記は、米沢市立上杉博物館の管理運営を行っている財団法人米沢上杉文化振興財団が、置賜広域行政事務組合から受託した事業で、同事務組合が作成する置賜広域交流拠点施設整備基礎調査における「置賜歴史民俗等文化施設整備基礎調査報告書」の部分記述およびそのための調査である。

本業務は博物館業務と並行して行われ、学芸員 角屋由美子、遠藤美穂が指導、総括にあたった。A4判893頁の前記報告書のうち本調査は851頁を占め、さらに218頁の追補版が発刊された。以下、本調査の概要を掲載する。

#### 1. 調査および整理の方法

上杉家ゆかりの資料のみならず、米沢藩に係るすべての資料を調査の対象とした。米沢藩士、領民の生活に係る資料も含む。基本的には、藩政時代であった近世が対象であるが、資料によっては中世以前にさかのぼるものもあり、また郷土出身人物の遺品など近・現代資料も網羅した。考古資料は除いた。

調査の方法は、各施設（博物館、図書館、等）において作成されている既存の目録を収集し、調査・整理をおこなった。また三市五町（旧米沢藩領、長井市／南陽市／米沢市／飯豊町／小国町／川西町／白鷹町／高畠町）の担当課、学校、神社、旅館、料亭等には調査票の記入を依頼した。その他三市五町の広報および新聞・テレビを通じて本事業の広報活動を行い、個人の所蔵資料について情報提供を得た。置賜以外の文化財公開施設、機関および個人についても可能な限り情報を収集し、確認調査を行った。

以上のような方法で集まった情報を、所蔵者ごとワープロ化し、さらに米沢市立上杉博物館の分類法（総集／文献／書跡／民具その他／美術工芸品／絵画／彫刻／遺跡／自然科学）によって別け、提出原稿とした。本調査において真贋の確定は行わず、調査票による申告資料もそのまま掲載している。

## 2. 米沢藩に係る文化資源の状況

### (1) 文化資源の状況と特徴

山形県内における国宝は建造物「羽黒山五重塔」と美術工芸品3点である。置賜地方にはその内の1点「紙本金地著色洛中洛外図」、通称「上杉本洛中洛外図屏風」が存在する。織田信長が上杉謙信に贈ったと伝えられる狩野永徳筆の本屏風は、数ある洛中洛外図の中でも出色の出来栄であり、世に著名である置賜地方における重要文化財の絵画・彫刻・工芸品は98件、書跡は3件、1,754点におよぶ。上杉謙信・景勝所用の服飾類84件はまとめて伝来しており、良好な保存状態から美しさに感嘆するとともに、当時の染織の技術、南蛮文化の水準とそれを楽しんだ戦国武将たちの粋を伝える。「上杉家文書」は本指定1,752通に附を加えれば2,000点を超す古文書群で、特に中世文書は内容的に歴史研究上の重要な史料であることはもとより、多くの文書が受け取ったときそのまま保存されていることが特徴であり、その形態も重視されている。また上杉家が所蔵する重要文化財「長尾上杉氏印章」は上杉謙信と歴代藩主が使用した印章であり、古文書中の使用例を示す具体的遺品として貴重なものである。

上杉謙信・景勝・鷹山等の甲冑をはじめ山形県指定文化財にも優品が多く、以下各市町指定の文化財、その他資料数は増える。これらの資料の多くは米沢藩主上杉氏に伝来したものおよび、米沢藩にかかわるものであり、上杉文化を形成するものである。全国の城下町は多数あるが、これだけまとめて資料が存在するのは稀有な例である。

中でも特筆されるのは、古文書、古記録、典籍、絵図等文献の資料の充実である。重要文化財「上杉家文書」については前述したが、調査編で一見すればあきらかである。本調査において町方や村方の文書まで所収することができなかったのは残念である。所在がわかっているものも多いので、調査終了後も博物館本来の業務として継続したいものである。それにより大名による支配体制が一層明確となり、近世大名のあり様を知ることができる地域として注目されよう。

戦前まで上杉家が所蔵していたものについて、過去の資料より整理を行ったが追跡調査には至らなかった。その作業も継続し、当地方に残る資料とともに展開できるような取組みが必要である。またコレクションや骨董品である個人蔵のものについては調査の上、資料として位置づけを行い、公開の協力を求めているかなければならない。

### (2) 地域別及び所蔵者別状況（総括）

#### ① 米 沢 市

上杉景勝が越後から会津に入部して120万石を領し、重臣直江山城守兼統が、伊達、信夫、置賜の30万石を預り城下町の整備がなされた。慶長6年（1601）関ヶ原の戦いにおいて、豊臣方に属した上杉氏は120万石から30万石に減領され、米沢に転封された。さらに寛文4年（1664）上杉氏は藩主綱勝の急死による継嗣問題で、伊達、信夫郡と高島領を失い15万石となった。しかし、藩主上杉氏に国替えはなく、米沢城の位置も変わらず

城下町が形成され、越後、会津と移動した謙信や謙信以前の上杉氏ゆかりの遺品が米沢に落ち着くこととなった。以後、幕末にいたるまでの米沢藩関係資料は膨大なものとなる。上杉家所蔵の遺品には戦後の散逸もあり、また米沢に現存するものについても上杉神社稽照殿、宮坂考古館、米沢市立上杉博物館、市立米沢図書館等公開施設がそれぞれに所有している。

米沢市は、明治22年(1889)に市制施行。昭和28年～30年に周辺の諸村を編入している。それぞれの村は米沢藩領として役割や特徴をもっており、地域には個人蔵の地方文書や神社、寺院関係資料が存在する。今回はこれらの悉皆調査をするに至らなかった。各村はほとんど郷土史を刊行しており、それらを手がかりに調査することが今後の課題といえよう。米沢藩と直接関わらないが、藩校興譲館で学び、全国区で活躍した先人の遺品調査も今後継続しなければならない。山形県立図書館県人文庫には、関係資料がまとまって保存されているが、平成8年度にその資料目録が完成する予定である。県人文庫に入っている米沢市出身者は、池田成彬(銀行家、三井財閥の指導者)、伊東忠太(建築史家、建築家)、大熊信行(経済学者、評論家、歌人)、高橋里美(哲学者)、平田東助(政治家、産業組合の指導者)、本間久雄(文芸評論家、英文学者、日本近代文学研究家)、我妻榮(法律学者)の各氏である。

## ② 長 井 市

慶長3年(1598)より幕末まで米沢藩領。

米沢藩による総検地は寛永15年から始まり、当市域では白兔村のものが「長井市文教の杜ながい」に収蔵されており「高橋文書」として市指定文化財となっている。おびたしい付箋や張り紙は、代々の肝煎に受け継がれた状況を伝えている。寺泉村の検地帳も「青木文書」として同所に現存し、伊左沢村のものは、明治大学刑事博物館蔵となっている。これらによって当時の村の構成や性格を把握することができる。

また、当地域は漆と青芋の適産地で、早くから栽培されていた。農民にとって相当の利益になる作物であったが、藩財政の窮乏につれて、強制買上げ、強制植立が命ぜられ農民の負担となっていった。

上杉定勝以来、歴代藩主や一族の人々が下長井に出向いている。

鷹狩や馬打、網漁などの遊覧、開発地の上覧であるが、これらの詳細な記録も済所に現存しており、米沢藩領における当地域の特徴や藩主の行動を窺い知ることができる。

時代を下がり、当地出身の先人も多いが、当市は明治南京画壇の先覚者、菅原白龍の作品をまとめて収蔵し、収集にあっている。また、長沼孝三彫塑館を開館して、その作品を収蔵、展観している。

※総検地……近代以降の土地台帳というべき検知帳作成のための田畑の測量。検地帳は、その村における土地所有と年貢賦課を知るための基本的重要な書類。

※肝煎……一村を代表する村長。西国の庄屋。東国の名主と同義。

※下長井……戦国期より、現米沢市を中心とする地域(成島荘)を上長井荘、長井市を中心とする地域を下長井荘と称するようになった。

### ③ 南陽市

慶長3年（1598）以来、米沢藩領として幕末にいたる。

商品作物は、丘陵地帯のある中川、吉野、漆山、梨郷の各地区に多く特に白鷹山麓小滝村では、漆、桑、紅花、青苧の生産が目立っている。萩村、河樋村には金山があった。

新田開発は当地でも行われ、江戸初期、北条郷代官安部右馬助も力を尽くした人だが、用水は充分ではなく、上杉鷹山の時代、寛政9年（1797）に、黒井堰が完成するまで、北条郷の人々は、慢性的な水不足に悩まされていた。

赤湯は、置賜地方随一の温泉地であるが、藩政時代も歴代藩主や家族が湯治に出かけている。

これらは、現存する古文書群によってその概要を知ることができる。

当地出身で大蔵大臣や日銀総裁を勤めた結城豊太郎の寄付による一万余点の書籍を中心に、著名人の書跡、古地図、古文書を収蔵、閲覧に供している南陽市立結城記念館がある。

漆山地区には、藩主休息の寺院であり、民話「鶴の恩返し」の由来を持つ珍藏寺があり、近くに夕鶴の里資料館、民話伝承館「語り部の館」がある。夕鶴の里資料館は、“民話”を後世に語り伝えていくために作られた民俗資料館であり、また、当時の中心産業であった養蚕、近代製糸と民具を紹介している。

### ④ 高畠町

慶長3年（1598）より上杉氏となり、城代（御役屋将）が配された。寛文4年（1664）藩主上杉綱勝の急死によって、米沢藩が15万石となった時、屋代郷3万石は幕府領となったが、米沢藩預り地等として高畑御役屋の支配を受けた。その後、織田氏の支配、幕府領米沢藩預かり地等と変遷し、さらに幕府領であっても代官直轄の村と米沢藩預り地の村とに分かれるなど、支配は複雑を極めた。

収奪の厳しい米沢藩領と幕府領屋代郷としてはおのずから農村の経済活動に差が生じることとなった。置賜地方の中でも特殊な歴史を背負う地域である。

安久津に高畠町郷土資料館を有し、各時代の主要な遺物・古文書を展示している。また先人については、近代日本における幼年童話の創始者といわれる浜田広介の記念館を平成元年に開館し、資料の収集、公開を行っている。

### ⑤ 川西町

慶長6年（1601）会津120万石から米沢30万石に減封された上杉氏は6,000人の家臣団を養うために、下級武士を原方衆として原野地に入れて半農半士的な生活をさせ、新田開発を奨励した。原方衆は米沢城下郊外が多いが、玉庭村にも200人ほど入った。堀金堰、高山堰、大塚堰、さらに、寛永2年（1625）から20年を費やして小松地区3か村を潤す長堀堰の完成など用水堀の開削は、新田開発に大きな効果をもたらした。これらの関係資料が個人蔵として伝えられている。

川西町には陶磁器の美術館として有名な財団法人掬粋巧芸館があり、国指定重要文化財「染付飛鳳唐草文八角瓢形花生」をはじめとして、中国の漢～清の陶磁器など250点、朝鮮の新羅・高麗・李朝までの陶磁器などの100点、日本の鎌倉～近代までの陶磁器などの約200点が常時展示されている。

#### ⑥ 白鷹町

上杉氏の支配地。慶長末期に作成された「邑鑑」によれば、当町域の村は22か村を数え、全村とも桑、漆、紅花、青苧などの栽培も行っている。上杉鷹山の殖産興業・国産奨励政策により、白鷹紬・白鷹お召・深山紙・十王焼・黒鴨硯などの製品を生み出した。十王焼は往時のものがわずかに残存し、他は技術として保存、伝承されている。

当時の物資の輸送は陸路か、福島を経て阿武隈川口から船に乗せるコースが多かったが運送費が莫大であった。元禄7年(1694)京都の豪商西村久左衛門は、最上川船運の難所黒滝を開削し、置賜地方の米・青苧などの重物資の輸送を容易にした。また当地域の特色としてキリシタン信仰の遺物や伝承を有することである。置賜地方はキリシタン信者の多いことで知られるが、十王称名寺に残る十字架・起請文は当時の布教の実態を示すものとして貴重である。

「白鷹町史」編纂における資料目録が充実しており、当地に存在する多くの古文書を整理している。また高玉瑞龍院の「龍門文庫」の蔵書は上杉家より譲与されたものを多く含んでいる。『上杉家御譲本』の所在調査とその史的研究』(平成元年、山形県立米沢女子短期大学)において目録化されている。

#### ⑦ 飯豊町

上杉氏の入部後、一貫して同氏の支配下にあった。

上杉鷹山の藩政改革以来、養蚕業、織物業が進展し、当地では山村である中津川地区と手ノ子群が盛んであったが、他の地域では稲作単作の地であって、養蚕業の普及はそれほどみられなかった。

小国町に隣接する当地には越後街道が通っており、諏訪峠を越えたところに松原宿、宇津峠にさしかかる麓に手ノ子宿があった。荷物は、牛馬による運搬の他に、手ノ子と小国から出ている背負子(しょいこ)と呼ばれる人足運搬もあった。

置賜地方では一人前になる儀式として、また豊作を祈願して飯豊山、出羽三山に参拝する山岳信仰が盛んであった。その際、小川のほとりに建てられた奥行き1間×1間半ほどの行屋(ぎょうや)と呼ばれる小屋で家族と離れて生活し、水垢離をとり精進潔斎する行(ぎょう)を行った。当地には行屋も点在し、飯豊山信仰の拠点として民俗資料にもみるべきものが多い。

## ⑧ 小 国 町

上杉氏が慶長3年(1598)に入部して以来、幕末まで一貫してその支配下にあった。城下より遠隔地であり、他領との境界に位置するため城代(御役屋将)が置かれ、家士20名、足軽30名をおいて警備にあたらせた。

明治11年(1878)神明山に創建された上杉神社は米沢城跡の上杉神社の分社である。その際、上杉茂憲より下賜されたのが、町指定文化財の「上杉謙信所用軍扇」と「上杉鷹山筆和歌」である。

越後街道は米沢と越後とを直結する幹線で、米沢藩の特産物である青芋、漆、タバコなどが移出され、塩、生肴、干魚、鉄、小干谷縮などが移入された。また大工、屋根葺、杜氏などの職人も多くやって来た。

小国と越後の結びつきは強く、大宮子易神社に奉納された絵馬や大宮子易講の存在に確認される。安産を願う婦人の祈りや習俗など、民俗事象の遺産も多い。

以上、地域別の特徴と資料所蔵の状態を概括的にまとめた。それによる課題や、本調査の総括を以下述べる。

地域別あるいは同地域内に市町、法人、個人による資料館や記念館等が開設されている。歴史文化施設(博物館)は他施設、機関と連携をはかりながら核としての機能を果たす必要がある。

本調査は、時間的な制約、個人蔵の情報公開の限界があり問題点も多いが、米沢藩関係資料が一冊にまとまったことにより資料の概要がとらえられ、施設の方向性を検討するのに寄与できるものと思われる。また多くの課題は施設建設後の運営機能にかかわるものであり、明確となったことも収穫であったといえよう。本調査では地域的な差ができたこと、調査票方式で申告となった資料について確認調査を行えなかったこと、所在がわかっていながら個別調査を行えず大枠でとらえたものと、悉皆調査となったものとではばらつきが生じたこと、また調査方針で真贋の確定を行っていないことなどを念頭におき調査編を利用していただきたい。個別調査を行えなかったものについては、調査編の最初に「一括資料」として掲載している。それらを整備していくことが歴史文化施設本来の機能であり、地域の核としての使命を果たすものと思われる。

所在地別資料状況

	総集		文献		書跡		民具その他		美術工芸品		絵画		彫刻		遺跡		自然科学	
	件数	点数	件数	点数	件数	点数	件数	点数	件数	点数	件数	点数	件数	点数	件数	点数	件数	点数
米沢市	38	74	15,543	43,883	424	520	1,014	1,893	509	609	996	990	218	219	10	859	264	1,507
南陽市			1	1									1	1				
長井市			14	14	11	42	3	6			16	27	10	20				
高島町													1	1				
川西町			2	12	1	1			16	16	11	12	1	1				
小国町			1	1	1	1			3	3								
白鷹町			1,211	1,333									1	1				
飯豊町			2	2									1	1				
その他	県内		207	329	6	6			1	1	90	90	73	73				
	県外	3	89	1,349	1,554	1	1			6	14	44	44					
合計	41	163	18,332	47,129	444	571	1,017	1,899	535	643	1,157	1,163	306	317	10	859	264	1,507

置賜歴史民俗等文化施設整備基礎調査収録文化資源一覧表（追補版）

	有形の資料																			
	総集		文献				工芸品				絵画		彫刻		遺跡		自然科学		合計	
			文献	書跡	民具その他	美術工芸品														
件数	点数	件数	点数	件数	点数	件数	点数	件数	点数	件数	点数	件数	点数	件数	点数	件数	点数	件数	点数	
米沢市			1,688	1,999														1,688	1,999	
長井市	266	266	2,992	3,211	109	134	5	13	14	15	44	46	1	1	12	12		3,443	3,698	
高島町																				
川西町																				
白鷹町																				
飯豊町																				
小国町																				
県内																				
県外																				
合計	266	266	4,680	5,210	109	134	5	13	14	15	44	46	1	1	12	12		5,131	5,697	



## 利用図書および目録と資料説明について

### 上杉文書（市立米沢図書館所蔵）

昭和29年に上杉家より譲り受けた古文書群。

上杉家の系図と歴代の年譜をはじめ、その家督から冠婚葬祭に至る記録、上杉家の所領・勤役・文庫に関するもの、米沢藩の軍制・法制・職制、家士の系譜・分限帳・藩制日帳・留書類、慶長以降の貢租・諸役、金穀出納記録、幕末維新史料、絵図等によって構成されている。

米沢藩のあり様を知ることができる基礎資料であり、重要文化財の「上杉家文書」と併用することによって、調査・研究を大きく進展させることができ、米沢の特色である展示に寄与できる。

本一覧は、昭和44年に市立米沢図書館が発行した「上杉文書目録」による。

### 鶴城叢書（市立米沢図書館所蔵）

江戸時代に編纂された史料を昭和5年から10年の間に書き写したもの。

原本の所在が不明となっているものも多く貴重な写本である。

叢書名の「鶴城」とは米沢城と称したことに由来する。

### 興譲館旧蔵和漢書（市立米沢図書館所蔵）

藩校興譲館は明治以降幾多の変遷があったが、蔵書は「興譲館財団」（興譲館の蔵書と財団によって設立された）が保存していた。その財団より米沢図書館が明治40年に寄贈を受けたものである。

興譲館本は、上杉景勝の重臣直江兼続がつくった禅林文庫にはじまり、四代藩主上杉綱憲が創建した学問所、上杉鷹山が再建した学館「興譲館」へと引き継がれ蒐集により次第に充実した。

本一覧表は「市立米沢図書館善本解題」内の附として昭和33年に刊行された「興譲館旧蔵和漢書目録」による。これは、米沢市制70周年記念事業の一端としてハーバード燕京同人社東方講座委員会の援助を得て蔵書の総点検をして編まれたものである。

### 鷹山公御手澤本（市立米沢図書館所蔵）

藩校興譲館に伝来した書物のうち、上杉鷹山が愛読した書物群。

## 林泉文庫（市立米沢図書館所蔵）

米沢図書館第二代館長伊佐早謙が蒐集した蔵書。

地域史研究に欠かせない基本資料群。

その死後、蔵書は子息によって上杉家に寄贈された。さらに昭和13年、その一部が上杉家より米沢図書館に寄託となり、後それは米沢図書館、米沢女子短期大学、山形大学、端龍院（白鷹町）がそれぞれ購入した。また、追加分として米沢図書館では数回に分けて上杉家より購入した。

伊佐早謙は、安政5年（1858）米沢上花沢信濃町に生まれた。家は代々御小納戸組として上杉家に仕えた米沢藩士である。興讓館提学片山弦斎の門に入り漢学を修めた。山形師範学校、米沢中学校の漢学教師を勤め、第二代米沢図書館館長となった。かたわら上杉家の記録編纂を委託されて「家記」等の編纂にあたった。

本一覧表は、市立米沢図書館所蔵の林泉文庫について、昭和58年に刊行された改訂版「林泉文庫目録」を基に作成した。

## 米沢善本（市立米沢図書館所蔵）

市立米沢図書館に現存する和漢の書物の中から“善本”として再構成された一群。この作業は、米沢市制70年記念事業の一端としてハーバード燕京同人社東方講座委員会の援助を得て行われたものである。

「米沢善本」は昭和60年、米沢市指定文化財となった。

## 郷土館関係寄託文書（市立米沢図書館所蔵）

昭和57年までに市立米沢図書館に寄贈あるいは寄託された古文書群。

代々米沢藩の絵図師であった岩瀬家、代々米沢藩の藩医で上杉鷹山の師薬科松伯の生家薬科家、代々家老職を勤めた竹俣家など米沢藩士や農家、商家それぞれ家ごとにまとまっている。

本一覧表は、昭和58年3月31日発行の「郷土関係寄贈寄託文書目録」に基づき、その後寄贈寄託となったものを加えて掲載した。

個人の寄贈寄託者についても、すでに目録に氏名が付されているためそのまま使用した。

## 上杉神社所蔵資料

上杉神社が所有する資料群で神社の宝物館である「稽照殿」が所蔵する。

平安時代から江戸時代までの各時代にわたる甲冑、刀剣、武具、絵画、仏書画、仏具、陶磁器、漆器、服飾、古文書、書跡など多種多様の資料に及ぶ。

上杉謙信、上杉景勝、直江兼続、上杉鷹山に直接関わる資料がほとんどで重要文化財111件とまさに上杉文化の核をなす。

## 宮坂考古館所蔵資料

初代館長宮坂善助が収集した資料群。

甲冑、武具、絵画、仏像、陶磁器、漆器、服飾、古文書、書跡、出土品などを有する。上杉家ゆかりの資料も多く甲冑5領は県指定文化財である。

また、火縄銃30匁筒8挺は市指定文化財であり稲富流砲術を伝承している。

## 上杉家文書〈重要文化財〉(米沢市立上杉博物館所蔵)

上杉家文書は、上杉家伝来の古文書群で1,752通からなる。

赤筆筒(乾)入文書	983通
赤筆筒(坤)入文書	522通
両掛入文書	130通
精撰古案入文書	117通
附 黒塗掛硯箱入文書案	2冊
歴代知行判物並領地目録	19通
歴代官物書類	199通
上杉家系図	4帖、10冊
歴代年譜(14部)	325冊
越後国頸城郡等絵図	3鋪

赤筆筒(乾)入文書、両掛入文書、精撰古案入文書の三棹には中世文書が収められ、赤筆筒(坤)入文書には江戸時代歴代藩主の書状、書付類があって、上杉治憲(鷹山)の自筆文書が中心となっている。

上杉家文書の特徴であり、最も重要な点は、多くの文書が受け取った時の状態のまま保存されていることである。このことは文書の形態や紙質の研究に極めて有用となっている。上杉家文書は、中世史研究上の重要な史料というだけでなく、文書の生きた姿をまとめて伝えた唯一の遺品として価値が高い。

## 新潟県史所収文書

新潟県史資料編に収められている上杉氏とその家臣団に係る文書をまとめて掲載した。所蔵者については新潟県史のまま採用し、現所蔵を確認するに至らなかった。

## 杉原家文書(米沢市立上杉博物館所蔵)

杉原家の先祖、水原常陸介親憲は上杉謙信時代越後水原城主であった。上杉景勝にも仕えて多くの戦功をたてた武将である。子孫は代々侍組として米沢藩に仕えた。

## 白鷹町史所収文書

白鷹町史史料目録は地方文書や切支丹文書等を所収しているが、そのうち江戸時代のものに限って掲載した。

## 民俗資料

民俗資料は米沢藩関係資料といえるかという問題もあろうが、支配者である藩主や武士とともに支配された多くの民衆がいたわけであり、同時に考えるべきである。しかし民具や農具は種類、所蔵者等多数あって特定し難いためこの度は調査を行わなかった。

しかし生活様式や農業技術の激変により、多数あるはずの資料も無くなるであろうことが予想され、民俗資料の早急な調査、収集が必要である。

本報告書では、米沢市指定文化財である「行屋資料」を民俗資料の代表として掲載した。

置賜地方では一人前になる儀式として、また豊作を祈願して飯豊山、出羽三山に参拝する山岳信仰が盛んであった。時期的には江戸時代中頃から昭和初期まで確認されている。その際、小川のほとりに建てられた奥行1間×間口1間半ほどの行屋と呼ばれる小屋で家族と離れて生活し、水垢離をとり精進潔斎する“行”を行った。行屋資料はその遺産であり、習俗は全国的に珍しいのである。

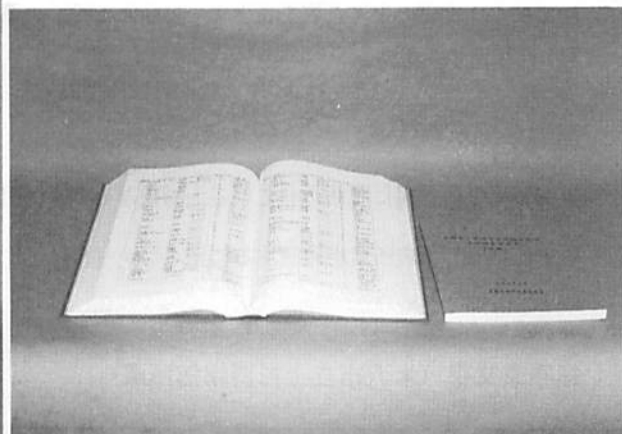
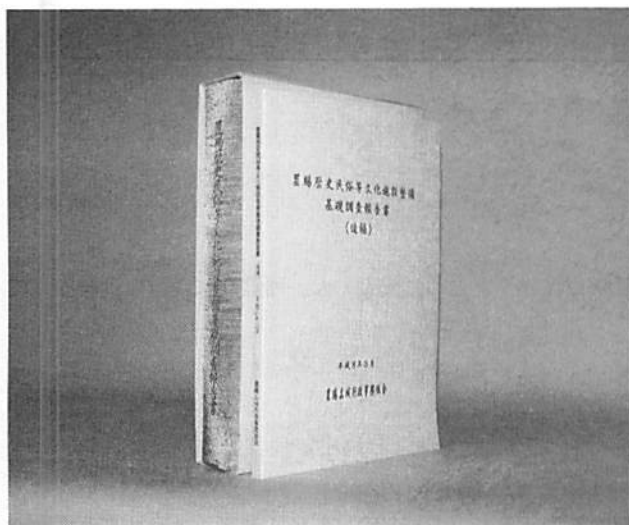
## 山形美術館所蔵の郷土作家資料

山形美術館が所蔵する郷土作家の作品については、同館が昭和62年10月に発行した「山形美術館収蔵品図録」による。

\*本報告は、置賜広域行政事務組合の了解を得て「置賜歴史民俗等文化施設整備基礎調査報告書」よりの転載および重複した表現も含んでいる。

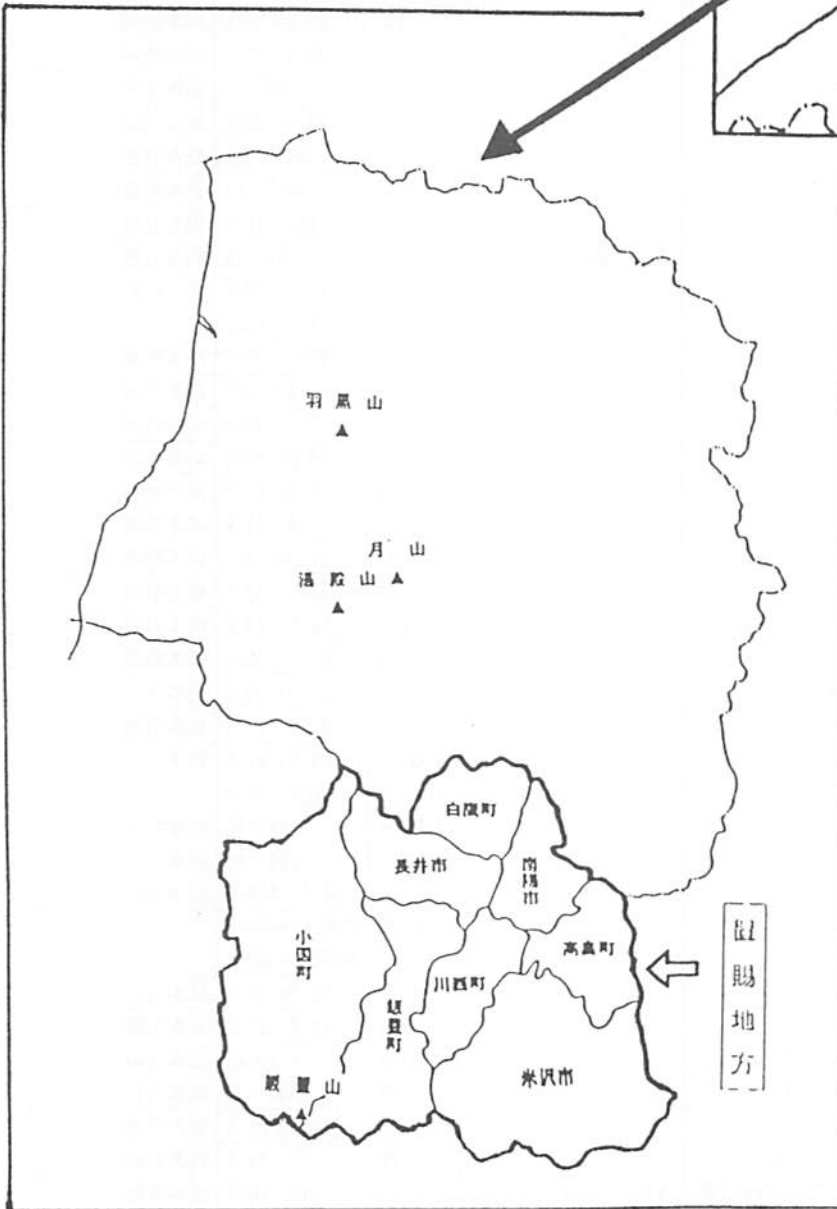
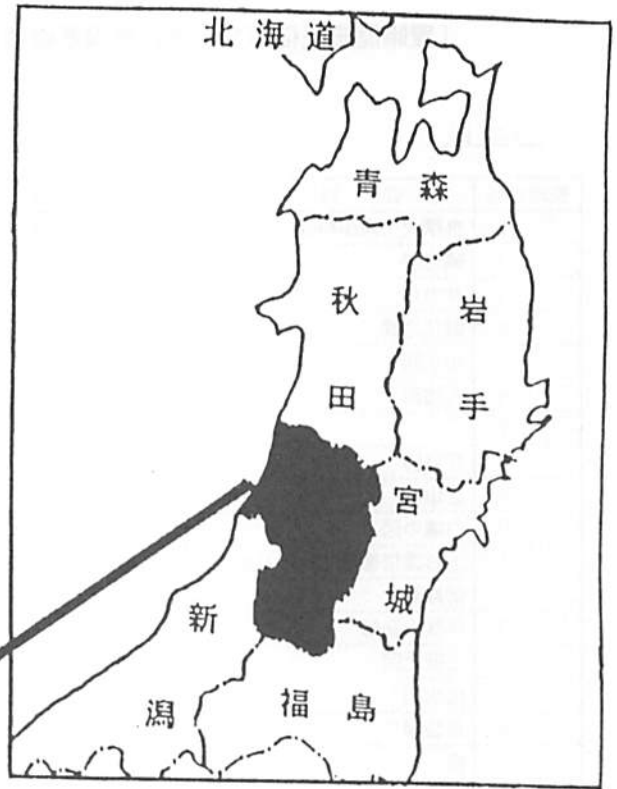
\*本調査の整理を行った臨時職員は次のとおりである。

五十嵐夕子 遠藤優子 嘉藤紀子 後藤真弓 鈴木敦子 高橋ひろみ 滝沢美枝子 我妻壽美 渡部留美



置賜歴史民俗等文化施設整備基礎調査報告書

「置賜地方」の場所



「置賜歴史民俗等文化施設整備基礎調査報告書」掲載例

所蔵者 米沢市立上杉博物館

絵画

整理番号	資料名	作者	時代	員数	法量	備考
1	維摩大士寒山拾得	狩野法眼(探幽)	正保4(1647)・3	三幅対	101×41	絹本淡彩
2	嘯虎図	岸駒		三幅対	115×51	絹本着色
3	秋の月	谷文晁、文一		一幅	29×51.5	紙本淡彩
4	戯花之蝶	谷文晁		一幅	93×34.5	絹本着色
5	山水図	春期南溟	甲戌(1874)・7	一幅	123.0×51.0	絹本淡彩
6	人物画	藤原栄信		三幅対	92×35.5	三枚一組
7				一幅	76.0×29.5	絹本着色
8	花鳥図	阜長		一幅	134.0×40.0	紙本着色
9	芝山桜	花隣		一幅	31.0×42.5	絹本着色
10	白鷹の図			一幅	96.5×40.0	絹本着色
11	上杉謙信像(東郷)平八郎書	鳥谷幡山		一幅	101.1×41.0	絹本着色
12	御殿鷹	州信		一幅	115.5×50.0	紙本着色
13	伊吹山新緑	戸田北暹		一幅	119.0×31.5	
14	三聖之図	三峯猛		三幅対	87.0×30.0	絹本墨画
15	山水図	台山		一幅	94.5×27.5	絹本淡彩
16	布袋図	作精		一幅	33×27	絹本墨画
17	梅	梅軒		一幅	133.0×27.5	紙本墨画
18	山菜	溝辺有巢		一幅	55×60.2	紙本着色
19	蕨	溝辺有巢		一幅	56.2×61	紙本着色
20	十三仏			一幅	115×47.5	絹本着色
21	初夏多友	長島星山	戊午(昭和53 1978)	一幅	57×48	絹本着色
22	風絵 ねふた	竹森節堂		一枚	91.5×63.0	紙 水彩
	風絵 ねふた	竹森節堂		一枚	64.0×45.0	
23	直江山城守兼統			一幅	67.5×33.2	絹本墨画
24	矢尾板三印			一幅	67.5×33.0	紙本墨画
25	細井平洲			一幅	67.5×33.5	絹本墨画
26	竹股當綱			一幅	68.0×33.5	絹本墨画
27	蘆科松伯			一幅	57.5×33.5	絹本墨画
28	菫戸善政			一幅	65.5×34.0	絹本墨画
29	神保蘭室			一幅	61.0×33.0	絹本墨画
30	神保欄室			一幅	67.5×33.5	絹本墨画
31	渡部伊右エ門			一幅	69.5×34.0	絹本墨画
32	雲井龍雄			一幅	65.0×32.5	絹本墨画
33	山水図	目賀多雲川守息		一幅	59.0×90.0	絹本淡彩
34	寿老人	目賀多守息		一幅	81.0×26.5	紙本墨画
35	聖賢像	目賀多守如		双幅(右)	89.5×31.5	紙本
	聖賢像	目賀多守如		双幅(左)	90.0×31.5	
36	松梅図	目賀多守如		双幅(右)	124×45	紙本淡彩
	松月梅	目賀多守如		双幅(左)	124×45	紙本
37	草木花図(粉本)	目賀多信済		一卷	31.5×625.0	紙本着色
38	山水図屏風 山水之画	目賀多信済		六曲一双	内161.0×353.5 内173.5×364.5	
39	孔子	目賀多雲川		三幅対	90.0×35.0	紙本淡彩
40	山水図	目賀多雲川		一幅	71.0×27.0	紙本墨画
41	仙人図	目賀多雲川		双幅	122×49	紙本淡彩
42	目賀多家粉本 屏風絵等写し	目賀多守息		一卷	630×30	紙本淡彩
43	目賀多家粉本 鷹山公肖像 デッサン	目賀多信済		一枚	44×27.5	紙本墨画
44	目賀多家粉本 騎驢老人	(目賀多)尚信		一枚	43×42.8	紙本墨画
45	目賀多家粉本 賢聖	目賀多幽雪 藤原守澄	享和元(1801)戊酉12・2	一卷	40×1657	紙本着色
46	目賀多家粉本 一休之図	目賀多		一枚	29.5×27.5	紙本着色
47	目賀多家粉本 衣裳、衣紋			一卷	29.5×1022	紙本着色

整理番号	資料名	作者	時代	員数	法量	備考
433	総評	稽古堂（上杉鷹山の書斎の名）			26.0×170.5	書、巻物、印刷 学館建立に関わる本
434	上杉飛脚 通行手形		文化6(1809).6.11	1枚	32.7×15.3	文
435	上泉御夫婦様宛	宮島大八			18.0×153.0	書簡、額
436	宮島詠士弔辞及び宮島誠一郎書状他		昭和18(1943).7.12		171.5×378.0	屏風、6曲半双
437	明治天皇陛下御巡幸輦路表		昭和15(1940) 皇紀2006日記念		60.5×247.0	文献、孟春堂亀溪 高橋庄吉写
438	明治14年小八郎婚礼献立				30.0×225.4	文、巻紙
439	山形県水系図（200分の1）			1幅	79.0×52.5	文
440	本県における贈位者分布図				104.5×69.0	文、軸装
441	大日本帝国山形県管内全図	三浦吉勝（山形県技手）（測量・製図）			96.5×62.0	明治38(1905).8訂正 増刷、「米沢図書館蔵書」の印あるが、郷土館時の台帳に記載されている。文
442	朝鮮地図	三省堂編			99.0×75.7	文、戦前のもの
443	満蒙現勢図	南満州鉄道株式会社調査課	大正6(1917).1		109.5×78.5	文
444	大清萬年一統地理全図 其一				129.5×56.0	文 字・絵の部分切り抜いてある
445	大清萬年一統地理全図 其二				130.0×59.0	文、四幅対
446	大清萬年一統地理全図 其三				129.5×59.0	文、四幅対
447	大清萬年一統地理全図 其四				129.5×56.0	文
448	上杉家歴代藩主像		明治17(1884).4.28		120.0×56.0	文献、木版印刷 多量製作
449	興讓館之図	窪島政男（紫陽）			59.5×87.5	文献、額装
450	歴史天皇御陵の画				25.3×412.0	絵、巻物、表具破損
451	御大典の図 第一図		昭和3(1928)		74.0×54.0	絵、軸破損、5軸の内1
452	御大典の図 第二図		昭和3(1928)		54.2×76.2	絵
453	御大典の図 第四図				78.5×54.2	絵
454	御大典の図 第五図				78.6×54.0	絵
455	大日本帝国貨幣古今集				129.0×77.0	文
456	かてもの版木一式	荻戸善政、矢尾板栄 雪他編、上杉鷹山の命による		28枚		80余種の可食山菜・野草についてその食べ方、保存法を記す
457	嚶鳴館遺稿版木	神保行簡（綱忠）他編		169枚		細井平洲の漢文体遺稿集。鷹山の命により編集。うち169枚（327面）は米沢市指定文化財
458	杉原家文書（一式）	水原親憲				古文書、1,202通の内1
459	羽陽叢書 甘棠篇 版木	新貝卓次編	明治13(1880) 出版	122枚	19.0×27.0	版木、両面使用
460	羽陽叢書 政徳篇	新貝卓次・齋藤善信編	明治16(1883).8 出版	35枚	19.0×27.0	版木、両面使用
461	宝永5年つちのえね乃貞享暦 版木		宝永5(1708)		20.5×71.5	5月の途中で切れている。片面のみ
462	拓本 楠木神社由来記				145.0×76.8	明治26年(1893)歳次 癸己春睦月 橘晴正 撰文并愍書及篆額
463	桃窩漫抄・桃窩隨筆題簽版木	宮島恕著			21.4×4.8	両面使用
464	鶴城叢書 題簽版木		第三代館長芦川氏時代 昭和5(1930)~10(1935)		17.0×3.3	片面のみ
465	直江公の行祭の感懐	杉原謙	明治26(1893)癸己.8月		32.0×51.5	文献、絹本

## 4. 収 集

### (1) 平成8年度受入資料

分 類	資 料 名	点数	受入種類	備 考	
美術工芸	風呂先屏風 春風	1点	寄 贈		
	屏風 閑古錐	1点	寄 贈		
	屏風 海の詩	1点	寄 贈		
	屏風 忘筌	1点	寄 贈		
	屏風 愛別離苦	1点	寄 贈		
	衝立 つらつら椿 1対	2点	寄 贈		
	染額 魚	1点	寄 贈		
	染額 遠い道	1点	寄 贈		
	のれん 猫	1点	寄 贈		
	のれん 猫	1点	寄 贈		
	染布	1点	寄 贈		
	染布	1点	寄 贈		
	染布	1点	寄 贈		
	総 集 絵 画 民 具	椿夏子写真パネル	1点	寄 贈	
		絹本淡彩天女図色紙	1点	寄 贈	
上杉謙信公 軍扇		1点	寄 贈		
上杉講社創立五周年記念 御神酒すず、かわらげ		4点	寄 贈		
勲一等瑞宝章、勲二等旭日重光章、功三級金鷄勲章、 下賜銀製花瓶		4点	寄 贈		
絵 画 書 跡 文 献 民 具	上杉謙信を守護する八将	1点	購 入		
	掛軸 上杉治廣書 1幅	1点	購 入		
	掛軸 神保欄室書 1幅	1点	購 入		
	古文書 嶋倉孫左エ門宛上杉謙信書状	1点	購 入		
	古文書 志駄源四郎宛長尾為景書状	1点	購 入		
	相良人形 達磨	1点	購 入		
	相良人形 軍配持立太鼓打唐子	1点	購 入		
	相良人形 火焰太鼓	1点	購 入		
	相良人形 大黒・布袋腕角力	1点	購 入		
	相良人形 犬乗り童子	1点	購 入		
	相良人形 座り庄屋	1点	購 入		
	相良人形 鼠抱き童子	1点	購 入		
	相良人形 犬抱き童子	1点	購 入		
	相良人形 采配持童子	1点	購 入		
	相良人形 踊る大黒天	1点	購 入		
相良人形 熊乗り金太郎	1点	購 入			
相良人形 亀と角力する童	1点	購 入			
絵 画	本間国生水墨画	1点	購 入		



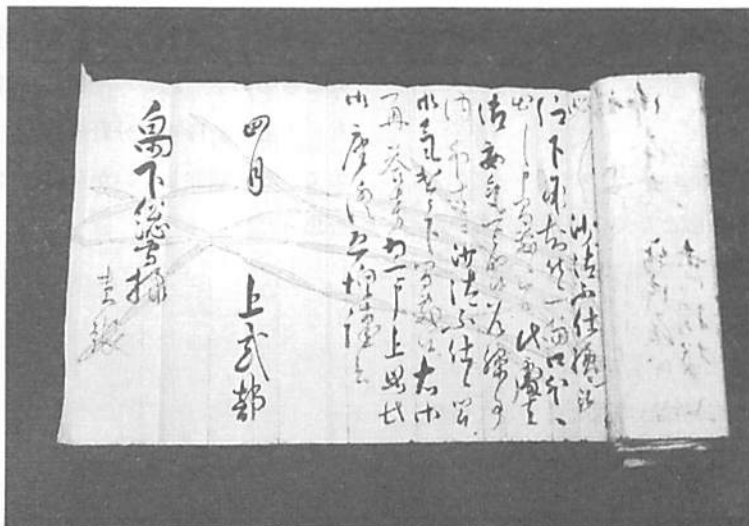
(2) 収蔵資料数（平成8年度）

平成7年度より資料分類・整理の方法が改定され、収蔵資料の再確認が行われた。

平成9年3月31日までに確認済みの件・点数、及び収蔵資料合計を下記に掲載する。

H.9.3.31 現在

大分類		H8年度収蔵資料数		合計			
		件数	点数	件数	点数		
総集		1	1	36	36		
人文系の博物館資料	伝世資料	文献	内容を重視するもの (文献)	2	2	4,758	5,660
		文献	技術や筆者を重視するもの (書跡)	2	2	179	215
	工芸品	用途を重視するもの (民具その他)	5	22	656	1,125	
		技術を重視するもの (美術工芸品)	13	14	50	100	
	絵画 (技術を重視するものを主とする)		3	3	427	457	
	彫刻 (技術を重視するものを主とする)		-	-	14	14	
	埋蔵発掘資料		-	-	-	-	
	遺跡 (記念物、建造物を含む)		-	-	-	-	
	無形の資料		-	-	-	-	
	計		26	44	6,120	7,607	
自然系の博物館資料		-	-	1,488	13,400		
合計		26	44	7,608	21,007		



新屋文書 島(山)下総守宛上(杉)式部書状

## 5. 博物館実習

本館では、各大学の学芸員資格取得者のため、博物館実習生を受け入れている。

本年度の博物館実習のノートより、実習状況・所感を紹介したい。

実習生	大学名	期間
千葉 寿子	米沢女子短大	8月31日～ 9月6日
羽賀知恵子	〃	
山田 和恵	〃	

### 博物館実習計画

担当学芸員：角屋

8/31	博物館概説 リーフレット作成 武具・武器の取扱
9/ 1	古文書解読
9/ 3	資料整理保存作業
9/ 4	保存作業・資料カード作成
9/ 5	展示品の収納・昆虫標本の整理
9/ 6	展示品の撤去・掃除

### —千葉さんの「実習日誌」より—

実習を終えて感じたことは学芸員の大変な苦勞と努力だった。勉強はしていたものの学芸員の大変さをわかっていなかった。実際に体験してみないとわからないことだらけであった。学芸員の日々の努力と苦勞があるからこそ、私たちが昔の物を見ることができるのだと改めて感じた。

### —羽賀さんの「実習日誌」より—

今まで博物館を見学する客として、展示を見ていたのを、今回、自分が裏方として働いてみて、展示品に対する考え方も変わりました。

昔の人の物に対する考え方がとてもよくわかった。物に対する思いやりと、客側からの目とを考えて時間をかけて展示を行っていることを実感しました。

### —山田さんの「実習日誌」より—

学芸員の仕事は、一般の人たちには周知されないような地味で裏方的存在ですが、博物館にはなくてはならない重要な任務を果たしています。

今を考えるだけでなく、未来を通してまで配慮することも学芸員の重要な任務だと思いました。

実習生	大学名	期間
石黒 吉寛	千葉大学	9月17日～ 9月23日

### 博物館実習計画

担当学芸員：角屋

9/17	館内清掃 実習ガイダンス 図書資料整理
9/18	昆虫標本整理
9/19	資料展示準備 文書整理 資料収集・整理・保存について講義
9/20	文書整理 文書解読 昆虫標本整理 資料展示準備
9/21	武具・武器の取扱い
9/22	収蔵庫整理
9/23	収蔵庫整理

### —石黒さんの「実習日誌」より—

博物館の仕事は実にいろいろなことがある。学芸員としての専門的な仕事から、さまざまな細かい仕事まで本当にやることが多い。博物館においては大学を出たときのある一部の専門的な知識だけではやっていけないと思う。様々な分野の様々な知識が必要なわけなので、日々勉強していかなければならない仕事であると思った。

# 平成8年度 入館利用状況

内容資料 3

## 1. 利用状況

平成8年度 米沢市立上杉博物館各種展覧会入館者・入館料集計表

(平成9年3月31日現在)

	展覧会名	会期	日数	一般	学生	小中生	団体一般	団体学生	団体小中生	その他	合計
1	宮廷衣裳展	4月26日～ 5月22日	32日	3,334人 2,000,000円	296	268	45	0	571	0	4,517人 2,285,360円
2	第7回昆虫展	7月13日～ 9月4日	43日	3,143人 628,600円	255	1,207	133	0	148	0	4,886人 741,010円
3	第26回日本刀展	9月21日～ 11月7日	38日	4,515人 2,257,500円	235	178	604	20	18	0	5,570人 2,593,640円
4	館藏品展	12月7日～ 2月9日	49日	1,118人 111,800円	117	52	107	0	23	0	1,417人 130,150円
合 計			164日	12,110人 4,998,300円	903	1,705	889	20	760	0	16,387人 5,750,160円

## 月別入館者数

月別	一般	学 生	小 中 生	団体一般	団体学生	団体小中生	合計人数
4月	612人	37人	42人	0人	0人	0人	691人
5月	2,522	255	222	45	0	571	3,615
6月	200	4	4	0	0	0	208
7月	695	57	217	3	0	30	1,002
8月	2,356	189	974	81	0	118	3,718
9月	1,016	93	65	89	0	0	1,623
10月	2,685	110	79	440	20	18	3,352
11月	906	41	50	124	0	0	1,121
12月	509	33	26	84	0	0	652
1月	294	51	16	10	0	10	381
2月	315	33	10	13	0	13	384
3月	0	0	0	0	0	0	0
合計	12,110	903	1,705	889	20	760	16,747

## 年度別入館者数・開館日数・1日平均入館者数

年次	入館者数	開館日数	1日平均
62年	35,966	262	137.3
63年	20,128	263	76.5
平成1年	22,317	252	88.6
2年	24,747	173	143.0
3年	23,857	243	98.2
4年	34,272	256	133.9
5年	37,355	241	155.0
6年	31,082	241	129.0
7年	17,088	94	181.8
8年	16,747	164	100.4

## 2. 利用案内

### ○ 開館時間

午前9時～午後5時（但し、入館は午後4時30分まで）

毎週火曜日 館内整理日 午前9時～午後4時（但し、入館は午後3時30分まで）

### ○ 入館料

区 分		金 額	摘 要
一 般		100 円	20歳以上の者
学 生		60 円	一般及び児童・生徒を除く者
児 童 ・ 生 徒		40 円	小学校及び中学校の児童または生徒
団 体	一 般	80 円	20人以上の場合に限る。
	学 生	45 円	
	児 童 ・ 生 徒	30 円	

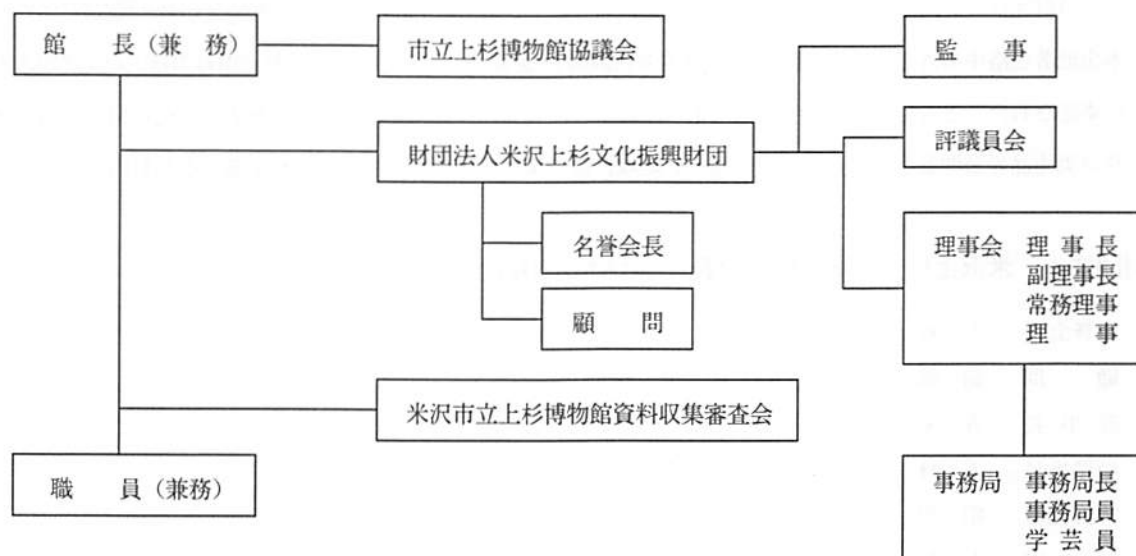
備考：期間を定めて特別の展示をする場合は、市長が別に定める額とする。

### ○ 休館日

毎週月曜日・年末年始（12月29日～1月3日）・祝祭日の翌日・館内整理期間

# 組織・名簿

## 組織



### 1. 米沢市立上杉博物館協議会委員 (平成8年7月1日～平成10年6月30日) (敬称略)

高橋 昭	米沢市小学校校長会会長	大 峽 猛	学識経験者
田中 武	米沢市中学校校長会会長	菊池 伸之	学識経験者
長谷部 國於	米沢市高等学校校長会会長	鈴木 仁	学識経験者
太宰 保子	米沢市社会教育委員	黒田 信介	学識経験者
栗林 金郎	(財)米沢上杉文化振興財団副理事長	佐藤 美保子	学識経験者
石栗 正人	米沢市文化財保護委員会委員長	鳥海 隼夫	学識経験者
五十嵐 謙一	学識経験者	山 村 精	学識経験者
上杉 虎雄	学識経験者		

(根拠法令等)

1. 博物館法第20条～第22条(博物館協議会)
2. 教育委員会が任命
3. 米沢市博物館の設置及び管理に関する条例第16条により定数15名、任期は2年

(参考) 委員は、学校教育及び社会教育の関係者並びに学識経験のある者。

(職務) 一博物館法第20条第2項一

博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる。

#### 平成8年度協議会開催

開催日 平成9年2月28日(金)

場 所 教育委員室

内 容 報告 平成8年度博物館事業並びに文化財に係る事業の実施状況について  
協議 平成9年度博物館事業計画及び予算について

## 2. 財団法人 米沢上杉文化振興財団

本館の管理を委託していた社団法人上杉博物館が平成2年3月に解散し、かわって財団法人米沢上杉文化振興財団が平成2年3月22日設立され、米沢市立上杉博物館の管理運営を財団に委託することとなった。

この財団は、平成元年、上杉家16代当主隆憲氏より、重要文化財「上杉家文書」・重要文化財（現在は国宝）「紙本金地著色洛中洛外図」・県指定文化財「紙本著色厩図」・重要美術品「太刀銘長船長光附打刀拵」の4件が米沢市に寄贈されたことを機として設立されたものであり、地域文化の振興を図るため、歴史・文化に関する調査研究及び美術品の公開展示などの事業を実施し、地域社会のより豊かな文化生活に寄与することを目的としている。

### 財団法人 米沢上杉文化振興財団役員（平成8年3月現在）（敬称略）

名誉会長	上杉邦憲				
顧問	高橋幸翁	鈴木幹司			
理事長	青木厚一				
副理事長	栗林金郎	石塚忠夫			
常務理事	相田 實				
理事	上杉裕憲	上杉敏子	上杉隆治	上杉虎雄	箕 統子
	山中絢子	小口 亘	大乘寺健	九里茂三	小嶋彌左衛門
	遠藤英明	椿 初枝	黒金義一	庄司 淳	相田吉助
	松田俊春	長岡 正	北目二郎	石栗正人	横山 一郎
	荒井政二郎	加藤裕子			
評議員	小泉溥瑛	新田秀次	山岸才一	清水 澄	井形朝良
	小野 榮	赤木伊勢吉	水無瀬正一	小林 勇	上泉 治
	勝見吾助	塩川勝彦	佐藤美保子	高橋素子	高森 務
	松野良寅	荒井信雄	菊池伸之	須貝 力	桜井三男
	高橋義和	遠藤宏三	小島卓二	保坂忠士	鈴木睦夫
	長尾和彦	遠藤綺一郎	佐藤道子		
監事	平田 栞	村岡孝助	安部紀子		
	財団法人 米沢上杉文化振興財団事務局				
事務局長	沖田良夫				
事務局員	角屋由美子（学芸員）		遠藤美穂（学芸員）		生熊郁子

## 3. 米沢市立上杉博物館

館長（兼務）	舟山豊弘	米沢市教育委員会文化課	課長
職員（兼務）	小林伸一	〃	課長補佐
〃	山本 卯	〃	文化財係長
〃	平間洋子	〃	文化財係主査
嘱託職員	遠藤貴治	〃	

---

平成8年度

米沢市立上杉博物館年報 Vol. 9

編集 米沢市立上杉博物館  
(財)米沢上杉文化振興財団  
〒992-0052 山形県米沢市丸の内一丁目4-13  
☎ 0238-23-7302

発行 米沢市教育委員会  
〒992-0012 山形県米沢市金池三丁目1-55  
☎ 0238-22-5111

平成10年3月31日 発行

印刷 株式会社 協和

---